PR

播磨姫路地域の中核的総合病院が開院しました。

兵庫県立 はりま姫路総合医療センター
5.1 OPEN

播磨姫路地域に暮らす80万人の命を守る。

―「はり姫」が取り組む4つのミッション―

県立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院の機能を継承・拡充する病院として、県立はりま姫路総合医療センター（愛称「はり姫」）は開院しました。「はり姫」が取り組むミッションへの期待を、関係機関の方々に伺いました。

院長が関係機関の方々に、各ミッションに対する期待を伺いました。

木下 芳一	北窓 隆子	小橋 昌司	眞庭 謙昌	石橋 悦次
兵庫県立はりま姫路総合医療センター 院長	姫路市医監	兵庫県立大学先端医療工学研究所 所長	神戸大学医学部附属病院 病院長	一般社団法人姫路市医師会 会長
2019 年 4 月に製鉄記念広畑病院 病院長、2020 年 4 月に県立姫路循環器病センター院長に就任。加古川東高校、神戸大学医学部大学院修了。	香川医科大学医学部卒業後、離島医療を含む臨床研修を経て厚生省入省。新潟県副知事、関東信越厚生局長を経て 2019 年 9 月に姫路市医監に就任。	兵庫県立大学工学研究科教授。姫路工業大学博士課程卒業。人工知能と画像処理による医療診断支援の研究、特にその実用化を推進。	神戸大学 副学長。一般社団法人神戸健康大学 理事。1965 年生まれ。島根県立浜田高等学校、神戸大学医学部卒業。	医療法人社団石橋内科理事長。1955 年、飾磨郡家島町（現在の姫路市家島町）生まれ。姫路西高校、川崎医科大学卒業。

MISSION 01 高度専門・急性期医療
地域の医療機関と連携して患者さんを支える。

木下（はり姫）院長）：「はり姫」は総合病院として、難治性疾患を抱える患者さん、そして手術・カテーテル治療、放射線治療といった、高度で専門的な治療を必要とする患者さんを主に診てまいります。病床数や医療スタッフの数などの面から、状態の安定した患者さんの経過観察や投薬は、地域のかかりつけ医の先生方にお願いできればと考えています。

石橋氏（姫路市医師会 会長、以下敬称略）：開業医としては、「はり姫」の開院を非常に心強く思っています。専門性を要する部分を「はり姫」で診ていただき、そこでの治療の情報をいただいて、状態が安定すれば、かかりつけ医として日常的に患者さんをフォローしていけたらと。

木下：地域医療を支える先生方と一緒に、播磨姫路地域の医療を良くしていきたいです。

石橋：お互い役割分担をしながら、連携を図っていきましょう。そして、救急患者さんをスムーズに引き受けていただける体制が増強されることも、切に期待しています。

MISSION 02 救急医療
救急搬送困難事例の低減を担う。

木下：県立姫路循環器病センターは循環器疾患の専門病院でしたし、製鉄記念広畑病院も規模の面から、必ずしもすべての救急患者さんを受け入れられませんでした。「はり姫」には多くの診療科が揃い、多くの救急専従スタッフが救命救急センターで働きます。

北窓氏（姫路市医監、以下敬称略）：分散配置されていた三次救急（一刻を争う重症・重篤な患者さんに対応する救急医療）の機能の統合・拡充は、これまで救急搬送困難事例が多かった（＊1）播磨姫路地域の「最後の砦」となっていただけるものと期待しています。

入院を要する患者さんの10人に1人以上が市外搬送されている。

令和3年の姫路市消防局の市外搬送の割合は、中等症以上で11.5％、重症・重篤では12.9％だった。「三次救急を基本としながらも、地域全体の搬送の状況を見ながら、中等症等の患者さんの受け入れも対応していきたい」（木下）。

（＊1）解説

木下：姫路市の協力を得て、「はり姫」には指導救命士が1名常駐します。救命救急センターの医師や看護師とコミュニケーションをとることで、お互いの仕事を理解し、医療と消防の新しい協働のシステムづくりをすすめて参ります。

北窓：「はり姫」で実施する救急ワークステーションには、救急車を1台常駐させます。派遣された救急救命士が医師や看護師の指導のもとで病院実習をおこない、救命処置の向上を図ります。人材育成の観点からも期待度の高い取組みだと感じています。

MISSION 03 医療人材育成
若い人材が修練を積める研修・環境を提供する。

石橋：人材育成といえば、播磨姫路地域は、全国的にみても医師が少ない地域です。「はり姫」には教育研修棟もできるということで、地元で医療に携わりたいと意欲的な研修医（＊2）の学びの場になっていただけたら。

医師のなり手はいる。それなのに、医師が少ない。

姫路近辺の進学校からは毎年100名以上が医学部に進学している。それにもかかわらず医師数が兵庫県の平均にも満たないのは、「医師としての十分な教育を受ける場が少なかったのが原因」（木下）。

（＊2）解説

眞庭氏（神戸大学医学部附属病院 病院長、以下敬称略）：今はもう、大学病院だけで医師を養成する時代ではなくなってきています。「はり姫」という地域の中核となる病院で修練できることは、卒業生が地元に留まってくれるチャンスに繋がる。若い医師が求める研修システムは、大学病院として積み重ねがありますので、積極的に共有・協力させていただきます。

木下：ありがとうございます。最近の研修医の動向として、救急医療や、総合診療的な分野に強い意欲をお持ちの方が多数います。「はり姫」は高度専門医療をおこなう一方で、地域医療を支援する拠点病院でもあります。

例えば、家島の診療所や山間部の公的病院については、総合内科医を中心に支援してまいります。

眞庭：地域の前線での診療は、大学病院では難しいところです。神大病院と「はり姫」それぞれの機能と役割を活かした連携を、是非おこなっていきましょう。

木下：教育研修棟の獨協学園フロアには、姫路市協力のもと、国内初導入を含む複数台の高機能シミュレーターが整備されました。研修医や若手の医師、地元の開業医の方々に実践的な研修を積んでいただけるようにします。

北窓：研修で指導される専門医との交流の場にもなるといいですよね。シミュレーターが優れた医師の育成に資することを期待しています。また、姫路市は「はり姫」開院に合わせて臨床研修医向けの奨励金を拡充しているので、活用いただけたら。

MISSION 04 臨床研究
病院診療×医工学研究のトップランナーを目指して。

木下：教育研修棟には、兵庫県立大学にも入っていただきます。患者さんを治療していくなかで「こういう機器があれば……」と困ったときに、技術的なアイデアと我々とは異なる視点での発想をいただけるのではとワクワクしています。

小橋氏（兵庫県立大学先端医療工学研究所 所長、以下敬称略）：兵庫県立大学では、前身の姫路工業大学当時から30年以上、医工学（＊3）の研究を続けてきました。渡り廊下ひとつで行き来できる距離ですので、どんどんご活用ください。

毎日のように対話を重ねていくことで、医学と工学の異文化を融合させ、より良い医療を実現していけるのではと考えています。

同じ敷地内での病院診療×医工学研究は、全国的にも稀有なコラボレーション。

工学と医学が融合した学問。兵庫県立大学先端医療工学研究所では、臨床応用、医療機器の製品化をゴールとした研究開発を推進している日本では「医工学の研究機関が多くない」（小橋氏）うえに、「病院と同じ敷地内で研究している事例は非常に珍しい」（眞庭氏）。

（＊3）解説

小橋：姫路には、ほんとうに、さまざまな特色と技術をもつ企業がありますね。我々をハブとして、そういった企業が持っておられる技術を医学の発展に繋げていけたら幸いです。

木下：今後、医工学の分野では、兵庫県下の県立病院をネットワーク化して、診療データをビッグデータとしてAI解析していく動きも出てくるでしょう。診療データを研究で扱う際は、患者さんの承諾が欠かせません。患者さんご自身が必要な医療、良質な医療を受けられたという実感をもっていただければ、きっとご快諾いただけると思います。

そのためにも、困ったときにはすぐに隣に「はり姫」があるよ、と親しみと信頼を寄せていただける病院に育てていきます。

皆さま、本日はお集まりいただきありがとうございました。引き続きご支援をお願いいたします。

眞庭：大学病院でも、同じ敷地内で工学部と共同研究するまでには至っていません。かたや欧米では、敷地内に工学部門があって、医療現場のニーズに応じて機器を共同開発している病院の事例も聞きます。

北窓：ものづくりのまちである姫路市としては、兵庫県立大学にはすでに産業界とも連携いただいていますが、大学の橋渡しによって「はり姫」とも産業界が連携して、実用化につながるような研究ができたらと期待しています。

兵庫県立
はりま姫路総合医療センター
Hyogo Prefectural Harima-Himeji General Medical Center

姫路市神屋町 3 丁目 264 番地
TEL: 079-289-5080
FAX: 079-289-2080
HP: https://hgmc.hyogo.jp

▲HP はこちらからご覧ください。